

[概要]

学校法人白峰学園は平成 30 年 5 月 30 日（水）に開催した理事会、評議員会で平成 29 年度決算を承認しました。学校法人会計の計算書類（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表）は、私立学校法と学校法人会計基準に定められた規則に基づき作成されています。概要は以下の通りです。

【資金収支計算書】

資金繰りの状態を表すもので、平成 29 年度内の全ての資金の流れを表示しています。収入の部は学生生徒等納付金収入 4 億 2,187 万 1,000 円、補助金収入 1 億 173 万 9,000 円など合計で 7 億 7,090 万 2,000 円です。支出の部は人件費 4 億 8,263 万 2,000 円、教育研究経費 1 億 3,442 万 8,000 円、管理経費 8,886 万 7,000 円などで翌年度繰越支払資金を含め合計で 7 億 7,090 万 2,000 円となります。

【事業活動収支計算書】

平成 29 年度の収入と支出の均衡状況を示し、当法人の経営状態を表す計算書で、教育活動収支と教育活動外収支を合わせた経常収支および特別収支で構成されています。

教育活動収入は、学生生徒等納付金、手数料、寄付金、経常費等補助金、付随事業収入、雑収入で合計 6 億 409 万円。一方、教育活動支出は人件費、教育研究経費、管理経費などで合計 8 億 219 万 8,000 円。教育活動収支差額は 1 億 9,810 万 8,000 円の支出超過となります。

教育活動外収入の受取利息・配当金収入 1,799 万 8,000 円を含めた経常収支差額は 1 億 8,011 万円の支出超過。特別支出の資産処分差額を含め基本金組入前当年度収支差額（事業活動収支差額）は 1 億 8,063 万 8,000 円の支出超過となります。予算編成時の見込みに比べ、諸経費節減努力により支出超過額は若干縮小しましたが、短期大学部門の学生数減少に伴う学生生徒等納付金の減収幅が大きかったことが響きました。

教育の向上を目的にした資産の取得や大規模補修工事のために必要な費用の総額である基本金組入額は 2,213 万 8,000 円。これにより基本金組入後の当年度収支差額は 2 億 277 万 6,000 円の支出超過となります。

平成 29 年度は、基本金組入額 2,213 万 8,000 円を教育研究機器備品の購入や図書館図書の購入などに充てました。

【貸借対照表】

貸借対照表は、平成 29 年度末における当法人の財政状態を示す計算書で、資産の部、負債の部、純資産の部により構成されています。有形固定資産の土地、建物、構築物、機器備品などについては、取得価額から減価償却累計額等を控除した金額で計算しています。資産の部合計は 52 億 8,163 万 8,000 円です。固定負債の退職給与引当金、流動負債の未払金、前受金など負債の部合計は 2 億 4,108 万 1,000 円です。基本金と繰越収支差額で構成される純資産の部合計は 50 億 4,055 万 7,000 円となります。

[今後の取り組み]

少子高齢化に伴う 18 歳人口の減少と女子の四年制大学志向、都市部の有力私立大学の入学定員増、専門学校との競合などの構造的な問題を受け、短期大学は全国的に志願者を減らす傾向にあります。本学園が設置する横浜女子短期大学も学生数の減少を余儀なくされ、厳しい経営環境に置かれています。諸経費節減努力を継続するとともに、学園財務の改善に向け大きな要素を占める学生生徒等納付金収入の増加を図るため、入学生募集活動は引き続き粘り強く推進していきます。

一方で身近な短期の高等教育機関であり、地域社会を支える専門職業人材の育成や生涯学習の受け皿などとして、短期大学に寄せられる期待も近年ますます大きくなっています。そうした中で本学もその設立目的である保育者養成に更に力を注いでいきます。小規模短大で少人数教育を行う本学の特長を生かした一人一人の学生に対するきめ細かな指導・対応を一層充実させ、進学先として保育者を目指す高校生・受験生が魅力を感じてくれる横浜女子短期大学となるよう教職員一体となり取り組む所存です。